

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		地域の行事にはなるべく多く参加していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	子供を守る安心の家の指定。 地域の高齢者の方とは以前に比べ交流が持ててい ないと感じるところがある。入居者の重度化によ り、外出の機会が減り、ごみ集め、草取りが出来 なくなってきた。		ご近所のお年寄りが気軽に立ち寄れる雰囲気作り をしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の重要性を職員全員が理解 しており、全員で自己評価を行なっている。サー ビス評価を活かしてサービスの確実な質の確保と向 上を念頭に毎日のケアに取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議は、包括支援センター職員、家族代 表、隣組代表等、随時の出席を頂いている。事前 に議題を通知し、利用者やサービスの実際、評価 への取り組み状況等について報告や話し合いを行 い、そこでの意見をサービス向上に活かしてい る。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	包括支援センター職員にはグループホームへの立 寄りも依頼している。市担当課へは、時々連絡や 助言を頂いている。市から派遣されている介護相 談員を月2回受け入れ、意見をサービスの向上に 役立てている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見人制度や地域福祉権利 擁護等について学んでいる。また、勉強会でも取 り上げ理解を深めている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	事業所において、虐待の危険はありえないことと 全員が理解している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係作りに重点を置いて、異動は最小限度にと本部へ依頼している。また、異動時には入居者に紹介、理解を得ている。開所時から勤務している職員もおり顔馴染みの職員による支援が行なわれている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や段階により、各研修に随時参加している。グループホームでの勉強会で研修報告を行い他職員の知識に役立てている。今年度は3名の職員が資格取得を目指している。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加する機会がなく、相互評価や交流や連携をとる迄には至っていないが、法人内にグループホームが出来たため市外ではあるが情報交換、訪問活動している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者や管理者は随時、職員の悩みや不満の相談に乗り、ストレスの軽減や環境の整備等に取り組んでいる。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員同志、お互いの価値観の違いを認めながら連携を図り職場環境を整えている。運営者や管理者は職員の勤務状況を把握し、努力や成果を認めている。資格取得を応援し資格手当支給に反映される。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接時や見学時に、ご本人の心情を受けとめるようにしているが、中には本人が入居を強く否定されていたが、家族の意向で入所決定を認め、入所後にG・Hに馴染めないでいる方もいる。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接時や、事業所見学時にご家族の心情を受け止めながら対応をしているが、ご家族からの情報が不十分な場合もある。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所の相談や電話での対応で、事業所で対応出来ない場合等は、ご本人やご家族の状況に応じ、他のサービスや相談窓口を紹介している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設見学において、他の入居者や職員との共有の時間を過ごして頂き、十分検討できるようにしているが、馴染めない利用者には、家族と連携を深め徐々に馴染めるよう工夫している。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「同じ屋根の下で共に暮らす」仲間として、職員は入居者の喜怒哀楽を受け入れ、ご本人の言動から心情を察し、受けとめるようにし、毎日の生活の変化を見逃さぬ様協力しながら生活を送るよう支援している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を大切にしている。ご家族の要望をサービス計画に取り入れ実現を目指している。通院時の協力を得たり、行事への参加や誕生日を一緒にお祝いして頂く機会を設けている。また、ご家族がグループホームのために野菜作りをしていてくれる方もいる。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会はいつでも自由にでき、時間の制限もなく、外出も外泊も自由に対応している。ご本人の状況を報告する機会を多くし、課題については、ご家族と相談しながら支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のなかには、地域の方との馴染みができ良い関係を継続している。近所の商店や散歩場所は馴染みの人や場所となっている。外部からの来訪者もオープンにしている。手紙や電話利用の支援等で継続的な関係維持を行なっている。		利用者のレベルの低下などもあり散歩など外に出る機会が以前に比べ減っているが、体調や対応の工夫でなるべく外へ出る機会を設けて関係の維持を図りたい。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、入居者間関係を理解し把握し入居者同志がお互いの関係を大事しながら生活が送れるよう支援や調整役を行っている。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されている時はお見舞いに行ったり、亡くなられた方の葬式に参列したりしている。また必要がなくなった介護用品を寄付される方もおられる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者全員が、その人らしく生活出来る視点を職員が持っている。一人一人の思いや意向に関心を払い、入居者本位に対応できるよう努力をしている。また、ご本人の言動や表情から推察し対応している。ご本人の思いをサービス計画に反映し、実現できるように支援をしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族に協力と理解を頂き、センター方式でご本人のバックグラウンドを把握、ご本人の生活歴やライフスタイルの情報を得ている。毎日の生活や言動からその人の価値観や個性を捉え、尊重した対応を心がけている。</p>	<p>家族等面会の際には差し障りのない程度に生活歴等の情報を得ていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者個人個人の生活習慣を尊重した対応を心がけている。ご本人の出来ること、残存機能に注目し、日常生活のなかで活かす支援をしている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成は、センター方式を使用。職員全員が介護計画に関わっている。ご本人やご家族の要望も取り入れた計画を作成。その都度ご家族やご本人の承認を得ている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が毎月チェック表を把握しサービス会議時に項目の検討を図りその月のサービスに活用している。チェック表の十分な活用と、モニタリングを活用し現状をきめ細かに把握できることを考えている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には、個人個人の1日の生活状況が把握できるような記録をしている。介護記録は、日中、夜間の状態を個別に記録。出勤職員は必ず目を通し、個々の状態を把握し、情報の共有と実践に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症の進行や重度化にあわせた支援をご家族と相談しながら行なっている。緊急時やご家族の対応困難な時は、柔軟な支援をするように努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の皆さんが安心して生活ができるように、町会長、民生委員、消防署、警察等の協力を得ている。地域の行事には積極的に参加。保育園との交流も継続的に実施。ボランティアの受け入れ機会は少なかった。		ボランティアの受け入れ機会を増やしていきたい。
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月1回の出張理容を受けている。地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との情報交換はほとんどしていない。		
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において地域包括支援センターの機能、活動状況や地域密着型サービスについて説明を頂いた。支援に関する助言や情報交換は行っているが協働までには至っていない。		今後、各制度についての勉強会の依頼等を含めて地域包括支援センターと地域の情報交換、協力関係を築いて協働して連携を図っていききたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により主治医を決めている。通院はご家族対応者と、近隣の内科医の往診を月2回受けている入居者がいる。他科の受診も主治医の指示で受診している。主治医との連絡や連携を取り適切な診療を受けられている。緊急時の対応や入院時の送迎も支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に精神科医がおり、適切な指示や助言を求めることが出来、認知症の診断や治療が受けられる。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接しているデイサービスの看護師に気楽に相談ができる。緊急を要する時は管理者が運営者と相談し適切な処置がとれるようにしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者が定期的に面会し精神的な支えとなるよう支援している。ご家族の協力と医療機関との連携で早期退院に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームでの対応が困難な場合は、特別養護老人ホーム入所のルートを確認している。状態に変化がある時はその都度家族と連絡を取り対応している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は、グループホームで対応困難な入居者の方は、特別養護老人ホームへの入所を支援している。重度化された入居者のご家族には、安心して生活が送れるように、主治医との連携を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>些細なことでも本人の思いを汲んで希望に添う対応や、自己決定の場面を増やしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>入居者の状態や職員体制により業務優先になってしまうことがあるが、出来る限り入居者に合った生活が送れるよう努めたい。「出来る事」に注目し、「出来ること」の見直しを定期的実施していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>月1回の理容時に、本人の好みの毛染めを楽しむ方もいる。また、居室には鏡やブラシを置くことで、ご本人が自主的に身だしなみに注意を払っている方もいる。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に同行して頂き、その場で選んで頂いたりしている。食事は利用者・職員と一緒に摂っているが現在は調理をしたり、片づけをしたりは限られた利用者になってしまっているが、何か少しでも利用者が力を活かせるよう様々な事に注意を向けるよう努めている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食材の買い出しは入居者の方と一緒に出かけ、夕飯の献立を一緒に考えたりする事もある。また、誕生日の際は那人食べたいものを出しお祝いをしている。また、お茶の時は数種類の飲み物の中から選んで頂いている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせてトイレへの誘導を行っている。現在はオムツの使用者は0である。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員体制の関係で決まった時間帯にしか入浴は出来ないが、ほぼ毎日実施しており、その日入浴できなかった方には足浴を行っている。また夏場は発汗が見られた場合には、シャワー浴を行っている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々にあった休息が取れるよう支援している。体調、気候の良いときは日中散歩へ出て日を浴びることにより生活リズムを整え、夜間の安眠につなげている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の得意とする物を行ってもらえるよう支援している。裁縫や調理など、生活に添った活動を取り入れている。また、犬を飼っているため、関わりを持つことで気分転換になっている。		外出機会が減ってしまっている為、外へでる機会を増やし気分転換を図って頂きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向やご家族の希望で、小遣いを所持されている方がいる。必要があれば職員と一緒に買い物へ出て購入されている。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の人々の理解や協力を得るため、出来るだけ事業所から地域に出ることにしている。入居者の体力に合わせた対応で心身の活性化や生活リズムを整えるため、日常的に散歩を実施している。		入居者の体力や、体調に合わせ、少人数または個別対応で支援できるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の対応で外出される方もおり、公園や、花の見物などに全員で出掛けている。全体の外出他個別の外出支援も以前と比較すると手薄になってしまっている状況がある。		同系列のグループホームと連携取り、頻繁に関わりをもち、また違った馴染みの関係を築いていければいいと思う。またご家族と一緒に出かける機会を設定していきたいと考えている。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出を受け電話の取り次ぎや手紙の投函を支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	近所の人やご家族、子供達の訪問を歓迎している。また気軽に来て頂けるよう声を掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の弊害を理解している。身体拘束ゼロを徹底している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	既存の建物なので、最初から居室には鍵がある。入居者が就寝時に施錠することはあるが、職員が施錠することはなく、入居者はいつでも、どんな時間でも出入りが出来る。一時、入所当初、帰宅願望の強いご利用者さんの安全確保のため、また職員の人数の確保が出来ず、やむおらず日中施錠をしていることがあったが、現在は離設の頻度が		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は1Fの談話室に常に職員がおり、家事などしながら入居者の所在を把握できる状態にある。夜間は居室入り口にセンサーを設置し安全確保が必要な入居者の対応にあたっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや爪切りを自分で保管している入居者もいる。包丁や洗剤等は台所や廊下の物入れに保管。鍵をかけることはない。服薬は事務所内に保管・管理している。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態に応じて対応している。当施設では階段があるため、歩行不安定の入居者は必要に応じて見守り、またはエレベーターを使用している。		入居者の重度化に伴い、一人ひとりのリスクを明確化していく必要があると考えている。また、ヒヤリハットの報告を活用をし事故防止に活かしていきたい。
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法の講習は職員全員が受講している。緊急時マニュアルも整備され、随時勉強会も行っている。		
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、避難訓練・消火訓練・通報訓練を実施している。		定期的な訓練を行い、実際に役立つ行動を身につけていきたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとり役割活動や外出等によりリスクは高くなるが、活動的な自由な生活を支援している。入居後の行動障害の減少や豊かな表情の表出などの変化で、ご家族が安心されている。リスクについてはご家族の協力が得られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の体調を一人ひとり把握しており、毎日顔色や食欲、排泄、行動の変化等をチェックし注意している。必要時は、バイタルチェックを行い、主治医に報告し、指示を仰いでいる。		
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や目的、副作用、注意事項のファイルは個人毎に整理されている。勉強会にも取り上げ、服薬内容や作用のリストを職員に配布している。		
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事はバランス良く用意できていると感じるが、その他、毎日の体操や散歩などで体を動かし自力での排便を促している。それでも便通の無い方に対しては主治医から指示を仰いでいる。またはイチジク浣腸の使用。		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいや義歯洗浄を支援している。また、定期的に入れ歯洗浄剤で清潔を維持している。		定期的な歯科受診や訪問歯科診療が受けられるか検討していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容はバランスを考え提供している。また、水分摂取は様々な方法で提供している。入浴後や夜間にも水分補給が出来るよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成している。日常的に手洗い、うがいの励行を行っている。また、感染性が強い手ふきタオルを廃止し、使い捨てのペーパータオルを使用している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清潔、調理器具やまな板の漂白、フキンの漂白等は順番が毎日実施している。食材の買い物は毎日行っているので、新鮮で安全な食材を使っている。冷蔵庫等は定期的に整理し、清潔を保っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はスロープもあり、季節毎に鉢植えが置かれる。学校帰りの子供達も気軽に訪問し、玄関には皆がくつろげるようソファが置いてある。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集まる談話室や玄関には花を置き目で楽しむ。トイレは外が気にならないよう、カフェカーテンを設置し、落ち着いた空間になっていると思う。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には皆で食卓を囲むようにテーブルがあるほか、畳を敷きごろ寝ができるようになっており、思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	以前からご本人が使用していたタンスや茶だ んす、机や仏壇など持ち込まれている。居室にはご 家族や本人の写真を貼り、趣味の俳句を飾られて いる方もいる。個々に合わせた部屋になってい る。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎日の清掃時に換気を行うほか、気候に合わせ温 度調節は職員が支援している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	当施設は2階に居室があるため、階段、またはエ レベーターを使用している。体調に無理が無い方 は身体機能維持に階段を使用されている。廊下、 居室入り口などに手すりを設置し、安全に配慮し ながら自立した生活を送れるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各居室には名前が付いており、わからない方には さりげなく居室の所在がわかるよう示している。 トイレも必要に応じてわかりやすいよう見やすく 貼り紙を貼るなどし、対応している。		各個人の分かる力の見極めを定期的に行い、その 都度最善の対応方法を検討していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	各居室のベランダは布団干しに使用するほか、花 を育てるのに使用する方もいる。畑もあり、入居 者と一緒に草取りや、収穫を楽しんでいる。		季節を五感で感じて頂ける環境を提供していきた い。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )